

③ 横浜でつながりを創る人々に伺う

⑫ 誰もが活躍できる場づくりを、すみれ夏祭りで輝くおやじたち〜
「メンバーを認め、認め合う。みな対等に話ができる関係になっています。」

すみれが丘の祭りを失くしたくない

私がこの地域で活動を始めたきっかけは、子どもが小学校2年生になったとき、すみれが丘小学校とすみれ小PTAからの依頼もあり、すみれ小「おやじクラブ」(おやじの会)の立ち上げメンバーとなったことです。

おやじクラブのメンバーは当初8名、私は最初の3年間は副会長、その後2年間は会長として関わりました。

おやじクラブの立ち上げを引き受けたのは、子どもがこの小学校に通い、この地域で育つ中で、良い思い出ができるように自分に何かできることをやってみよう、と思っていたからです。

ある日、地元の「盆踊り終了」のチラシが班回覧されました。町内会の役員が高齢化したこともあり、人手不足が一番の理由だったようです。そんな中、地元の床屋で髪を切っているときに、店長さんから「すみれが丘の盆踊り、終わっちゃうんだよね。」

と言われました。

これはいけない。子どものための何かできることはないだろうかということ、おやじクラブのメンバーと、町内会の若手が集まることになりました。

集まったのが4月で、初めは「翌年から実施できれば」という雰囲気でしたが、どうせだったら今年からやろうということになりました。盆踊りが8月だったので、実施までの期間はたったの4か月でしたが、「子どもたちのために夏祭りを！」という1つの共通目標があったためか、皆でまとまることができました。

例の床屋さんに通っている地元の方で、音響も取り扱っている舞台設備関係の社長さんがいて、その方の協力もいただくことができました。そういう意味では、地元の床屋さんがハブとなって、夏祭りが実現できたことになりましたね。

夏祭り当日、発電機のトラブルもあり、ステージの発表

順を急ぎ変更するなど対応しましたが、自分が関わった初回ということもあり、一番印象に残る年になっています。地元で、自分たち主導で開催できたこともあり、達成感もひとしおです。

私の中でおやじクラブは夏祭りといっても過言ではありません。夏祭りのために頑張っているおやじクラブのメンバーもいます。

「記録に残る夏祭り」に

夏祭りには、当時は実働部隊でしたが、今は総合演出という関わりをしています。

実行委員のみんなに達成感を味わってもらいたくて、第1回から夏祭りを映像として残していますが、回を重ねるごとにだんだん凝るようになってきて、最近では完成形をイメージしながら当日の撮影を行うようになりました。中身はもちろんおやじクラブの活躍が中心です。

毎年夏祭りの後のお疲れ様会を別の日に実施しているのですが、できたてのDVDを

皆でお酒を飲みながら見えます。毎回好評です。

また、正月に親戚が集まる機会があるのですが、そこでも毎年鑑賞会を行っています。こちらも好評です。

よく考えると自分が一番楽しんでますね。究極の自己満足です(笑)。

メンバーを認め、認め合う

私に関わる夏祭りも今年で6年目となりましたが、夏祭りを中心に人の輪が広がりました。実行委員会のメンバーも当初は17名でしたが、現在は36名になっています。今年も5名の新規メンバーが加わりました。



夏祭りを撮影したDVD



清水 力さん

都筑区在住。2008年にすみれ小おやじクラブを立ち上げ、副会長を3年間、会長を2年間務める。2010年にはすみれ夏祭り実行委員会副会長、現在は総合演出プロデューサー。2012年からはスポーツ推進委員としても活躍中。

聞き手

山口 宣子

都筑区地域振興課地域力推進担当係長

武智 勇人

都筑区地域振興課地域力推進担当

瑞岩 利恵

都筑区地域振興課地域力推進担当(地域元気推進員)

新しいメンバーに入ってもらうために、運動会で募集のPRをしたり、夏祭りのアンケートで少しでも興味がありそうな方をチェックして覚えておいたり、その方を何かの機会に誘ってみる、ということも地道にやっています。

自分の趣味でソフトボールチームもやっているのですが、そこに新しく入ってもらったパパさんにも、夏祭りの手伝いをお願いしています。初めは気軽な感じですが、範囲で手伝ってもらって、気が付くとどっぷりハマっているという感じで。恋愛と一緒にです(笑)。こちらが深追いすると逃げていく(笑)。

会をまとめるにあたって、メンバーに対してなるべく強制しないことを心がけていて、そうすることで、志を同じにしている人が集まるようになると思っています。

先日、某グローバル上場会社の元CEOによるダイバーシティイマネジメントセミナーを受講した際、「個人を認めて、それを引き延ばす。色々な人種がいることを認めて、その上で話を進めていく。」という話を伺いました。

夏祭りでも一緒に、例えば、ある若手の実行委員が「ステージの位置を少しずらした

方が良いのでは？」という提案に対し、初めは実行委員の中でも反対派が多かったのですが、最終的に提案どおり実施しようということになりました。自分の意見が認めてもらえるため、やっていて楽しい。お互いを尊重し、認め合い、言い合える関係性が大切だと思っています。今のメンバーも年の差はありますが、みな対等に話ができる関係になっています。

協議会、PTA、町内会 が広がるつながり

夏祭りを始める同じ年に、中川西元気づくり協議会(注)が設立され、私はすみれ小おやじクラブの副会長として参加しました。

協議会には近隣エリアの他の小・中学校のおやじの会も参加していて、それをきっかけに、牛久保小おやじの会、中川西中おやじの会、中川小中おやじの会にはすみれ夏祭りにも参加してもらっています。

すみれ小のPTA会長も1年務めました。PTAと元気づくり協議会でのつながりが、夏祭りやおやじクラブの活動につながっています。おやじクラブ・すみれ夏祭り実行委員で活躍して、その

まま町内会役員になる人もいます。おやじクラブの設立当時、町内会役員は1名でしたが、現在はおやじクラブ出身の30〜50代の役員が7名くらいになったと聞いています。私も平成24年度から、地元

の町内会から推薦いただいたので、スポーツ推進委員として活動を行っています。区のスポート推進委員には長く従事している方も多く、年数の浅い今は無理な企画はできません(笑)、そのうち自分のやりたいことができるのかもしれないと思っています。

子どものために、続けます

私は生まれも育ちも横浜で、横浜のことが好きなんだと思います。

小さな時の思い出の1つがお祭りだったので、自分の子どもたちがその経験ができなくなってしまうのが、すみれが丘の祭りを失くしたくなかったんですね。おやじクラブの立ち上げも、自分の子どもがこの地域で、健康で明るく育ててもらいたいと思ったからです。

子どもは親の背中を見て育っていくと思っています。この地を選んだ責任とまでは言いませんが、自分の子どもがこの地域に住んで良かった

と思ってもらえるように今後も活動を続けていきます。

メンバーとは「早く子どもに代に引き継いでもらえれば」と話していますが、まだ何年もかかりますね(笑)。

すみれ夏祭りの打合せは、毎回土曜日の早朝に行います。家族に迷惑を掛けることもない時間帯なので、家庭内の評判も悪くない。地域のため、子どものための良い活動なのに、家族に迷惑を掛けては本末転倒ですよ。

親である自分がいろんな事を知っていて、活動している中で、家族も楽しんでもらえればハッピーです。



すみれ小の「おやじ」たち

【インタビューを終えて】

活動を始めたきっかけを、つきつめて考えただくと「横浜が好き、地元愛です」とのお答えでした。自分の住む地域を好きでいることが地域活動の大きなモチベーションなのだと言付かされました。(山口)

子どものため、地域のために行っている活動だが、自分が楽しむことをモットーとしている印象を受けました。それが周りにも伝播し、結果的に「良い仲間」が集い、さらに良い取組が地域に広がる。すみれ夏祭りのDVDの中には、普段見ることができないおやじ達の最高の笑顔が詰まっています。(武智)

静かな方だと思っていた清水さんの「押しつけがましくない熱い思い」に触れました。(瑞岩)

(注) 中川西地区元気づくり協議会

中川西中学校、中川西・すみれが丘・都筑・荏田・牛久保の各小学校のPTAやおやじの会、青少年指導員、スポーツ推進委員など、若い世代が中心に参加し、平成22年度から地域ぐるみの子ども・青少年育成支援に取り組む。現在は「中川スクールコミュニティ」として、それぞれの活動内容を共有し、意見交換する環境をつくり、相互連携を図っている。